

非鉄金属王国の 黎明期

人間界が誕生しても、しばらくの間はシルバー王子や銅将軍をはじめ多くの非鉄金属の仲間たちはほとんどまだひっそりと静かに暮らしていたが、人間界の住人たちが鉄を使い始めたのを見るにつけ、

「我々はいつまで、こうしてひっそりと暮らし続けるんだろう。」
「いつになったら、私達も鉄のように活躍できるようになるんだろう。」
と考える者も現われるようになってきた。

そんな、ある日のこと……。

多くの非鉄金属の仲間を代表して、
シルバー王子がゴールド女王に質問をした。



「ゴールド女王様、いつになったら私達非鉄金属が十分に活躍できるような時代がやってくるのでしょうか？」

ゴールド女王は

「私達には、この先なんども危機が訪れますが、最後には正義の使者が現れて、私達に永遠の命を与えてくれることになっているそうです。だから、慌てることはありませんよ。」

と、古くから言い伝えられている予言を皆に話した。

それを聞いた多くの非鉄金属たちは、



「そのようなことを言われましても、今の状況では、まったくその見通しが見えません。」

「私も、早く本来の活躍がしたいんです。」

と、次々に不安や不満を口にした。



「慌てることはありません。どんな姿、形をしていても私たちの本質は変わらないのですから。」

ゴールド女王は静かに答えた。



「本質とはいったいなんですか？」

と錫が質問した。

それを聞いた学者の鉛が、ゴールド女王のかわりに答える。

「重さ(↓)のことだよ。我々にはそれぞれ決まった重さがあって、それはどんな姿、形をしていても、永遠に変わらないのだよ。」



「そう言っても、この前も大地が大きく割れるような動き(!!)で、仲間の一部がどこかに行ってしまったのではないか。」

と、錫はさらに質問した。

「いやいや、あれは見かけ上のことだよ。一時的に見えないところに姿をくらましてしまっただけで、ちゃんと存在はしているよ。いずれはまた、我々と一緒になるはずだよ。」

と鉛が答えた。

非鉄金属と 人間共存のはじまり

集まった多くの非鉄金属たちを見渡したシルバー王子が、

「我々の仲間はずっと多くいるはずなのに、ここにはまだ全員が揃っていない気がするな。」

と、銅将軍に尋ねた。





すると銅将軍は答える。

「はい、そのとおりです。我々の仲間は、ここに集まった者たち以外にも存在しますが、人間界の住人たちがまだまだ未熟で、彼らを発見する知恵や技術を持っていないのです。」

それを聞いたシルバー王子は

「そういうことであれば、人間界の住人たちに、我々非鉄金属がそれぞれ持っている特性を教えてください。そうすれば、お互いの世界にとって、良いことがたくさん起こるのではないだろうか。」

と言う。



「ふん、あのわからずやの人間界の住人どもが、本当にそう簡単に理解するかな？人間界の住人どもときたら、私と銅将軍の一部が合体して『青銅』と呼ばれる金属になり、彼らの役に立っていることさえ、まだ十分に理解していないんだぜ。」

と錫は不満を口にした。



「大丈夫ですよ。錫が思っているよりも人間界の住人はずっと利口ですよ。きっと理解してくれるでしょう。」

と銅将軍。



「そして、その中でも神の心と能力を持ったものが現れて、私たちに永遠の生活を与えてくれると伝えられているのです。それには途方もない時間が必要になるかもしれませんが、みなさん、待つのです。」

とゴールド女王が語った。

「そうですね、そんな日が早くこないかな。もう、鉄の王は人間界の中心の道具として活躍しているようだよ。」

と、不服そうに錫はつぶやいた。



そんな錫の言葉を聞いていた魔法使いの水銀が立ち上がり、

「よし、それでは人間界の住人たちに、私の能力をちょっと見せてやるか！」

と言い放った。



水銀の準備を待って、金属たちはみんなで人間界へと向かった。

人間界の住人たちは、形が見えないとその存在を理解できない者が多い。人間界の住人たちに非鉄金属の存在を理解させるには、美しい形、姿を実際に見せることが一番である。

人間界に到着した水銀はさっそく人間たちを集め、まず、錫が言っていた「青銅」作りにとりかかった。

銅将軍と錫を呼び、両者の一部を合体させて、美しい「青銅」の像を作り、それを人間たちに見せたのだ。



その様子を見ていたゴールド女王に、水銀が言った。

「ゴールド女王、ほんのわずかで結構です。ゴールド女王の一部を私にください。私は水のように流れることができ、その状態を保ったままですらいますから、ほんの少しでいいのです」





はじめは抵抗したゴールド女王だったが、しつこくお願いする水銀に、体の一部を渡した。すると、みるみるゴールド女王の一部だった金は水銀に溶けてしまった。

非鉄金属界の仲間も人間界の住人も、その場にいた全員がその様子を心配して見ている。

水銀は、

「できあがったこの合金 (|||) を、先ほど作った青銅の表面に塗ってください。」



と人間界の住人たちに言った。

人間界の住人たちは水銀に言われるまま、青銅の上に先ほどできあがった合金を塗った。



そしてその作業が終わったことを見届けて、さらに

「火を使って、これをあぶってください」



と言う。

「金や銅、錫が入っているのに、そんなことをしたら危ない！」

と非鉄金属界の仲間たちは反対したが、



人間界の住人は

「水銀があぶれというのだから、とりあえずやってみよう」

と、反対意見を気にせず火にかけた。

すると黒ずんでいた像の色が、みるみる金色に輝き出した。水銀はどこかに飛んで行き、黄金に輝く像が現れたのである。これに人間界の住人たちは大変驚き、また、その美しさに心を奪われた。



人間界の住人たちは

「このような美しい物ができるのであれば、これからは非鉄金属界の仲間たちもしっかりと集めるようにしましょう」

と、大騒ぎ。

水銀はこの様子を見て、

「うまくいった。これで人間界の住人たちは鉄だけでなく、私たち非鉄金属界の仲間も集めてくれるようになるぞ！」



とつぶやき、微笑んだ。

KEYWORD 鉛博士の「これってなに？」

❶ 重さは容・形が変わっても変わらない

金属元素は、生まれたときから重さ(質量)が陽子と電子の数で決まっている。

❷ 「大地が大きく割れる様な動き」について

古代の造山活動、現代では地震や火山活動のことを指しており、現在でも火山から溶岩が流れ出ている。なお、海底にある火山活動ではマグマが直接噴出している場合がある。

❸ アマルガムについて

水銀と他の金属との合金を総じて「アマルガム」と呼ぶ。アマルガムの本来の意味は「柔らかい」からきてるとされる。水銀は主に非鉄金属(金、銀、銅など)と合金を作り、その組成によってはかなり柔らかい状態を保ち、常温でも液体状態になる場合もある。この性質を利用し、古来から非鉄金属の製錬やメッキ法に利用された。

(注) 水銀蒸気は人体にとって有害です。現在では、水銀の回収装置がない環境下で水銀を蒸気にして飛ばすことは禁止されています。またこの水銀法は、昔から現在まで金の採集に使用されている方法ですが、最近世界条約として成立した水銀条約はこの方法による水銀汚染を防ぐためです。